

# 経営概況とサツマイモ栽培について

令和6年11月18日

佐藤武喜

## 1 経営規模

### (1) 品目（面積）

水稲（42ha）、小麦（5ha）、そば（22ha）、アスパラガス（40a）、さつまいも（1ha）

### (2) 労力

常時雇用 2人、パート 3人

## 2 経営の特徴と課題

- ・水稲、小麦、そば等の土地利用型作物を中心とした経営である。
- ・そば連作ほ場において、近年収量が減少している。

## 3 サツマイモ栽培

### (1) 導入動機

- ・ソバとの輪作で、安定した収量が望め、高齢や女性などでも作業出来る品目を模索。
- ・会津坂下町長井地区で、かつて栽培が盛んであったサツマイモに着目し、令和4年から試作栽培を開始。

### (2) 栽培結果

- ・収量は2 t /10a。
- ・生食用に向かない大きいイモが多いため、干し芋用の加工原料として販売。

### (3) 新技術の評価

#### ア 生分解性マルチ

- ・ビニールマルチと比べて労力を軽減出来るが、価格が高い。
- ・栽培中に破れた箇所から雑草が生えてくるため、雑草対策が必要。

#### イ ジャガイモ用乗用堀上機の改良機

- ・従来の専用機より作業速度が遅い。
- ・馬力が小さく、雨で土が重くなると作業を行うことが困難。
- ・掘上げ幅が狭く、イモが切れてしまうこともある。

#### ウ 排水対策（明きょ+カットブレイカー）

- ・明きょに水が排水されず、今年度は効果を実感出来なかった。
- ・ほ場の一部の排水不良が解消できなかったため、次年度も対策を検討したい。